

果樹園災害復興支援技術開発事業費

背景

- 西日本豪雨により、南予を中心に多くの園地が被災。未だ復旧の途上。
- 産地復興に向け、生産技術面からの支援が必要
- 被災地での若い後継者グループの起業
- 担い手・労働力不足

課題

○ 苗定植後の未収益期間の短縮
⇒ 早期成園化

○ 担い手不足
⇒ 園内作業の省力化
○ 平坦地は水田転換多く低品質
⇒ 高品質化

○ 土質が不安定な急傾斜地
⇒ 災害に強い園地改良

研究内容

大学の研究シーズ

復旧した園地の早期成園化等を後押しする技術の開発

- ・生育環境制御システム等を活用した柑橘の早期成園化技術
- ・大苗の軽量化による定植作業の負担軽減

【果樹研究センター・みかん研究所・(株)玉津柑橘倶楽部】

省力化や高品質化を実現する先進経営モデルの確立

- ・園内道設置等による省力技術
- ・根域制限栽培による高品質生産技術
- ・実証園等における経営モデルの作成

【果樹研究センター・みかん研究所・農林水産研究所・(株)玉津柑橘倶楽部】

豪雨でも崩れにくい園地に改良する技術の開発

- ・現場モニタリング
- ・降雨浸透制御の実現可能性検証
- ・排水改良の最適化と実証

【愛媛大学柑橘産業イノベーションセンター・みかん研究所・(株)玉津柑橘倶楽部】

早期成園化・省力軽労化・災害に強い園地

- ・未収益期間を1-2年短縮(3年→1-2年)
- ・結実初年度から高品質生産を実現
- ・近い将来の園内作業ロボット等導入のための基盤づくり

若い後継者グループや農家を技術面からサポート

復興の加速化・農家の所得向上

地域経済の活性化・復興に向けた発信力の強化